

【科研費応募支援ニュースレター No.39】 発信日 250723 (水)
タイトル_「学振による科研費説明会」

教育職員 各位

URA 高木敦子

いつもお世話になっております。URAの高木敦子です。
科研費の公募が開始されました。産研事務室からのメール(7月15日14:47)のとおり、学内締め切りは8月27日(水)(ロバストジャパンのレビュー支援利用者の場合は9月8日(月))となっております。

令和8年度科研費 応募支援として開催してまいりました、以下の外部講師・学内講師による科研費セミナーも、皆様のご協力のおかげで、無事、終了することができました。改めまして、お礼申し上げます。また、講師をお勤めいただきました先生方に深謝いたします。

6月16日 岡野 恵子 先生(慶應義塾大学 グローバルリサーチインスティテュート)

6月24日 生田 祐介 先生(経営学部 商学科)

7月01日 李 東俊 先生(経済学部 経済学科)

7月08日 宅島 大亮 先生(全学教育機構 教職教育センター)

7月15日 西口 利文 先生(全学教育機構 教職教育センター)

7月15日 草場 光博 先生(システム工学部 システム工学科)

7月22日 天野 圭子 先生(建築・環境デザイン学部 建築・環境デザイン学科)

配信をご希望されるお声も複数いただいております。現在、オンデマンドでご視聴いただけるよう準備を進めております。準備が整い次第、産研事務室から皆様にお伝えいたします。

本日は、7月17日(木)にオンラインで開催されました日本学術振興会主催の『令和7(2025)年度 科学研究費助成事業等説明会』の内容を簡単にお伝えしたいと思います。8月の中旬までには学振のHPで、当日の説明動画を公開予定とのことですので、詳細はそちらをご覧ください。

説明資料は、以下にアップしました。

https://drive.google.com/drive/folders/1uXj2osDgVsAu1UnttJmS46AnfRe5Bl7k?usp=drive_link

資料1 科学研究費助成事業(科研費)について

資料2 令和8(2026)年度公募について

資料3 科学研究費助成事業(科研費)の適正な管理等について

なお、資料4と資料5については当日の説明はありませんでしたが、科研費応募にあたりご参照ください。

資料4 researchmap及びプレプリントサーバーについて

資料5 科研費電子申請システムの操作方法について-応募にあたって

『資料1 科学研究費助成事業（科研費）について』より

1-1 科研費事業の概要

・令和7年度科研費の新規採択率について

基盤研究(S) 12.1%、基盤研究(A) 26.1%、基盤研究(B) 26.7%、基盤研究(C) 27.4%、若手研究(S) 40.2%となっています。

1-2 科研費事業の最近の動向について

さらなる改善について各面から検討が続けられています。

『資料2 令和8(2026)年度公募について』より

2-1 科研費の応募にあたって

・「研究計画調書の作成に当たっての留意点」として、記載されていることをそのまま書きます。

・研究計画調書は評定基準等に示す「評定要素」の観点に沿って作成してください。特に研究計画の学術的価値、独自性、創造性に関する内容を具体的に つ明確に記述してください。（令和7年度科研費申請の評定基準の URL :

[https://www.jsps.go.jp/j-](https://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/01_seido/03_shinsa/#u20230311174420)

[grantsinaid/01_seido/03_shinsa/#u20230311174420](https://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/01_seido/03_shinsa/#u20230311174420))

（学振に確認したところ、R8年度科研費の「評定要素」は公募期間中には出ないそうですが、令和7年度のそれと大きなかわりはないとのことです）

・調書内の研究遂行能力欄は単に業績を羅列するのではなく、今回の研究計画を遂行する能力を有していることが確認できる内容を記載してください。

・大区分・中区分で審査される研究種目は広い分野の審査委員で審査していることを意識し、内容は専門分野が離れた審査委員にも理解しやすいように記載してください。

（赤字と下線はそのまま。小区分でも専門分野が離れた審査委員にも理解しやすいように記載してください。URA 記入）

・応募する研究者の方へ

応募者の自由な発想に基づく研究計画が科学の発展の第一歩です。

学術的「問い」から生まれる課題に挑戦する研究を、科研費は支援します。

（赤字と下線はそのまま）

・AIによって誤った情報が生成されていることも見うけられるので、科研費の公募に関する情報は、公募要領の記載内容をご確認ください。（赤字はそのまま）

2-2 令和8(2026)年度公募における主な変更点について

・審査資料の電子化及びカラー化について

「基盤研究（A）（一般）」が新たにカラー化されましたが、基盤研究（B）（C）、若手研究、挑戦的研究などは、以前と同様モノクロ印刷された研究計画調書を審査資料として使用されます。

・学術研究の国際性の強化に向けた制度改革
令和7年度申請から新に加わった「国際性」は、令和8年申請においても継続されています。

・基盤研究等の研究計画調書の変更について

(令和7年度申請からの変更が継続されています。URA 記入)

【基盤研究、若手研究、学術変革領域研究、帰国発展研究】

(1)の「学術的背景」と(3)の「着想に至った経緯」は、記載内容に重複する部分や関連する部分が多く含まれることから、1つの指示書きとして(1)にまとめました。

【基盤研究A・B・C】

(6)として「国際性」に関する記載を求める指示書きを追加しました。

上記追加に伴い、(3)の「国内外の研究動向と本研究の位置づけ」と記載内容が重複するため、「国内外の位置づけ」を「関連分野の位置づけ」に修正しました。

・研究設備・機器の共用の促進について

・研究データマネジメントについて

・学術論文等のオープンアクセス化の推進について

・安全保障貿易管理情報の登録について

2-3 科研費に応募する研究機関・研究者の方々へ

・研究者が支える科研費制度-研究者には3つの責務

「応募者」としての責務、「研究実施者」としての責務、「審査委員」としての責務
(リマインドされておりました。URA 記入)

『資料3 科学研究費助成事業(科研費)の適正な管理等について』より

3-1 科研費の管理と適正な執行について

3-2 研究不正等の防止について

3-3 令和6年度科研費実地検査の結果

今後も科研費申請や研究活動に関する情報を共有してまいります。ご不明な点、ご意見・ご要望等がございましたら、お気軽にURAまでお知らせください。

どうぞよろしくお願いいたします。

本学 web サイト【研究・社会連携»科学研究費助成事業】ページ内に、科研費の応募支援や研究支援に関する情報が掲載されています。

https://www.osaka-sandai.ac.jp/research/grantinaid_scientific_research.html

【ID: kenkyu パスワード: sanken3001】